

2019 年度事業活動報告

2020 年度事業計画



特定非営利活動法人
海外に子ども用車椅子を送る会

URL: www.kaigaikurumaisu.org

～ ご挨拶 ～

日本において、肢体不自由な子ども達は10～30万円もする高価で高性能の車椅子に乗ることができます。90%もの公的補助金が出るお蔭で、肢体不自由児を抱える多くの親は、軽微な自己負担で済むのです。私自身も障がい児をもつ親の一人として、この恵まれた環境に大変感謝しています。



ところが、子どもが成長すると車椅子は相対的に小さくなり、2～3年で乗り換えねばなりません。そうして高価な車椅子は、廃棄処分の運命におかれるのが現状です。私の子どもは脳性まひですが、こうした買い替え時期を迎えるともったいなくて壊れてもいない子ども用車椅子を捨てることができず頭をかかえていました。車椅子の状態が捨てるにはあまりに良いのです。

日本では捨てられてしまう運命の車椅子は粗大ごみ扱いでしょうが、海外の肢体不自由な子どもにとっては宝物です。家から出ることができない生活に苦しんでいる子ども達を一人でも救い、自由に動き回れる移動手段を提供したいと思います。高価な車椅子に乗ることは彼等にとっては夢のような話なのです。障がいのある子ども達が車椅子を手に入れて行動範囲を広げ、地域の人々と広く交流し、お互いの理解を深めて豊かな人生を送って欲しいと願っています。

どうか、多くの方々にこのような日本と海外の現状をご理解いただき、ご支援、ご協力を賜りたいと思います。体を動かせない子ども達にとっての「夢の乗り物」、これが子ども用車椅子です。私は一台でも多くの子ども用車椅子を日本から送り出し、彼らの笑顔を見てみたい、そのような姿を頭に描きながら、力の限り日々活動に取り組んでいます。

会長 森田 祐和

2019 年度事業報告

1. 車椅子収集事業

日本国内の子ども達の体に合わなくなり使われなくなった車椅子は、首都圏の肢体不自由児が通う特別支援学校や療育施設などの PTA の保護者や自立支援活動部の先生方の協力をいただき、**24 の学校・療育センター**から 446 台の提供を受けました。首都圏以外の支援学校や、個人からの持ち込みを加えた総台数は 550 台以上です。2018 年度よりは少ない台数とはなりましたが、贈呈計画台数に支障がでることはありませんでした。

都県別年度別の学校数と収集実績は次の通りです。

首都圏肢体不自由児特別支援学校からの収集台数（首都圏以外の特別支援学校の数字は含まず）

都・県 (学校数)	2016 年 (学校数)		2017 年 (学校数)		2018 年 (学校数)		2019 年 (学校数)	
東 京 (20)	229 台	(12)	136 台	(7)	180 台	(10)	143 台	(9)
神奈川 (18)	170 台	(9)	245 台	(12)	124 台	(9)	131 台	(7)
埼 玉 (8)	163 台	(7)	102 台	(5)	146 台	(5)	105 台	(5)
千 葉 (9)	132 台	(5)	47 台	(1)	119 台	(5)	67 台	(3)
合 計 (55)	694 台	(33)	530 台	(25)	569 台	(29)	446 台	(24)

(学校数は 2020 年 4 月調査時点の数字)

2019 年度も首都圏特別支援学校の半数近くの学校から車椅子の提供がありました。しかしながら、神奈川県以外は提供台数が減少し、全体としての車椅子の集まりは減少傾向でした。このため首都圏の特別支援学校からの車椅子の提供は前年比で 120 台以上の減少です。2020 年の 2、3 月は新型コロナウイルスの感染拡大防止を目的として、当会への提供を 4 月以降に延期した学校が複数ありました。それが昨年比減少の一因であろうと思われます。

一方、近年着実に増えている個人や一般の人からの提供が 100 台程度あり、総数は昨年度に近いものとなりました。また、大阪の箕面支援学校から 7 台の車椅子の提供がありました。この送料は、先方の負担でした。遠いところからにもかかわらず費用を負担してまで送ってくださったことに感謝します。
(上記の表にはその数字は含まれていません)

当会のホームページを見て、様々な人からの車椅子の提供があります。個人での持ち込みもあり、自分たちが提供する車椅子がどのようにして海外に送られるのかを見たいということで例会の活動の様子を見学に来られる家族もあります。

今後も皆様からの継続的な車椅子の提供をお願いします。

(提供方法は当会のホームページをご覧ください <http://kaigaikurumaisu.org/>)

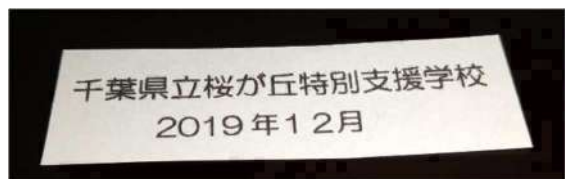
○車椅子収集の様子



都立鹿本学園での収集の様子です。PTA の役員がトラックへの積み込みを手伝ってくれました。



神奈川県立若葉台特別支援学校での収集の様子です。雨の中の積み込みを先生方が手伝ってくれました。



収集した車椅子には提供してくれた学校名と収集年月を示すシールを貼ります。ホームページを通して、贈呈報告書にその情報を記載することで提供者にどこの国にいつ送ったかを知らせます。そのことで、受益者とのつながりを感じてもらうことを意図しています。

写真は2019年12月に収集した車椅子にラベルを貼った状態と「千葉県立桜ヶ丘特別支援学校」のラベルです。この活動は2019年10月からなので、実際にラベルを貼った車椅子が海外に送られた台数はまだ多くはありません。今後、台数が増えて贈呈式などでラベルを見つけて、提供してくれた学校へのお知らせができることを願っています。

2. 車椅子整備事業

収集した車椅子は一旦倉庫に保管します。そして、毎月の第3日曜日の例会活動日に倉庫から出して清掃・整備をします。活動の参加者は、大学生や高校生、当会を支援してくれている企業の社員、そして在日のベトナム、エチオピア、ネパールの人たちです。2019年6月からは米軍横田基地からの参加も始まりました。

当会のWEBサイトを見て参加してくれた横田基地に勤務するオースティンさんは日曜日に何かすることがないかとインターネットを見ていたら当会が見つかり、興味がわき参加してくれるようになりました。以降の例会に7～8名のチームで毎月の活動に参加してくれています。相模女子大チームメンバーにとっては英会話力を磨く場所ともなっています。

参加者の総数は、年間延べ654名となりました。毎月平均では65名です。これは昨年より20%以上の増加です。7、8月では100人を超える参加者があり、スタッフは嬉しい悲鳴をあげるほどでした。そうした人たちにより、年間467台の車椅子の洗浄、修理整備、梱包することができました。

○整備作業の様子



(左) 看板と写真パネル、会の紹介冊子、募金箱を用意してボランティアを迎えます。



(右) 清掃・整備作業は多くのごみが出ます。環境に配慮しゴミの分別を徹底します。



(左) 収集した車椅子は倉庫に保管です。常時200台以上が格納されます。



(右) 倉庫から出して整備作業を行います。

○整備作業の様子



(左) Austin さん（右端の男性）の呼びかけに答えて8人のメンバーで参加してくれた横田基地メンバーです。



(右) 8月の夏休みには小学生の参加が毎年あります。しっかりとお手伝いをしてくれます。



(左) 今日も1人で参加のネパールチームのビマラさん。黙々と作業をしてくれます。



(右) 元理容業を営んでいた斎藤さん。店を閉めて時間ができたので毎月の参加です。



(左) 2018年に続いて2020年2月にパラグアイ大使が当会の活動に来て、活動の見学をするとともにパラグアイへ車椅子を送ってくれることへのお礼の言葉を森田会長に伝えました。



持参してくれたラベル

(右) オーシャン ネットワーク エクスプレス ジャパン（ONE ジャパン）の社員の皆さんが活動に参加しました。ラベルを持参してくれたので、整備が完了後にパラグアイ向け車椅子のすべてに貼り付けました。同社はパラグアイへの海上輸送を無償で提供してくれています。

○整備作業の様子



(左) 株式会社創カンパニーの稲垣さんは、数か月に1度使われなくなった車椅子を運んでくれます。(ピンクの車椅子の後ろが稲垣さん。青のバギーの後ろは森田会長)

(右) アメリカン・プレジデント・ラインチームが記念撮影です。同社はベトナムへの海上輸送を無償で提供してくれました。(車椅子に貼り付ける APL のラベルも持参してくれました)



(左) 例会の主力である相模女子大チームです。毎月20名近くの参加者がいます。

(右) ベトナムチームです。一番遠い人は埼玉県から2時間半かけてきてくれています。

ベトナムチームも毎月20名近くの参加で活動を支えてくれます。

毎月欠かさず多人数で参加してくれるこの2チームのパワーが例会活動を推進してくれます。



(左) 都立多摩工業高校の先生と生徒さんです。毎月必ず参加してくれる少数精鋭の力強いチームです。

(右) 例会活動と資金援助で支援してくれている昭島中央ロータリクラブの皆さんです。

○整備作業の様子



(左) エチオピアチームです。3人のエチオピア出身者と3人の日本人支援者です。

(右) 日興アセットマネジメント株式会社の皆さんです。同社は例会への活動参加に加えて、資金面でも毎年欠かずに寄付金を提供してくれています。



(左) 丁寧に清掃・整備を行います。

(右) 梱包をしっかりと行い、輸送中の破損事故が起きないように心配りをします。



作業を完了し、全員での記念撮影

掲げている旗は、左から都立多摩工業高校のジュニアレッドクロス（JRC）部旗、日本国旗、エチオピア国旗、ベトナム国旗、パラグアイ国旗です。

3. 車椅子発送事業



車椅子は丁寧に梱包して、コンテナに積み込んで船便で各国へ発送します。写真はマレーシア向け170台の積み込みの様子と、車椅子を載せた40フィートコンテナを牽引するトラックです。

2019 年度寄贈実績

タイ	2019 年 6 月	90 台	タイ身体障害者協会 (APHT)
マレーシア	2019 年 7 月	170 台	東方政策元日本留学生同窓会 (ALEPS)
エチオピア	2019 年 8 月	70 台	チェシャ・エチオピア財団 (CFAI)
ベトナム	2019 年 11 月	90 台	ベトナム赤十字 (タイ・グエン省、タイ・ビン省)
カンボジア	2019 年 11 月	90 台	カンボジア障害者支援センター (DAC)
モンゴル	2019 年 12 月	26 台	オルホン県エルデネット市
パラグアイ	2020 年 2 月	90 台	パラグアイ障害者人権保護庁 (SENADIS)
合 計		626 台	

2019 年度は新たな国モンゴルへの贈呈を行いました。NPO 法人 good! の磯田浩司氏、有限会社さいとう工房の斎藤氏、高齢者施設マイライフ徳丸の施設長 高麗 (こうま) 氏との連携で実現しました。これで車椅子を送った国・地域の数は24となりました。

2019 年度贈呈台数の合計 : 626 台

2004 年に活動を始めてから累計で24 カ国へ8,182 台 (2020 年2月現在) の贈呈実績となりました。

○贈呈式の様子



タイ ラッチャブリでの贈呈式



タイ ペッチャブリでの贈呈式

○贈呈式の様子



タイ チャンタブリでの贈呈式

タイでの贈呈式は2019年11月に上記の3つの会場で開催されました。当会からの出席者はありませんでしたが、式典を開催したタイ身体障害者協会の会長から報告書が届きました。



ベトナム タイ・グエン省での贈呈式



ベトナム タイ・ビン省での贈呈式

ベトナムでの贈呈式は2020年1月に2省の会場で開催されました。ベトナム赤十字本部と2省の赤十字地域本部の連携で盛大な式典となりました。当会からは2名が出席し、挨拶などを行いました。

○家庭訪問の様子



ベトナム タイ・ビン省での家庭訪問の様子

贈呈式終了後に、車椅子を受け取った2家庭を訪問しました。どの家族も喜び「本当に有難う」の言葉を何度も繰り返していました。

現地での贈呈式や家庭訪問の様子など詳しくは、当会ホームページや活動レポートを参照ください。

4. 活動広報事業

私たちの現地での活動の様子や海外の受入団体と子ども達の感謝の気持ちを具体的に支援者の方々に伝えるために、「活動報告レポート」を発行しています。年間計画では4回の発行を目指していましたが、2回（22、23号）の実績となりました。

また、ホームページで日本での車椅子収集の様子から、整備・発送までの活動と海外での贈呈式の様子をタイムリーに広報するよう努めていますので、随時ご参照ください。

<http://www.kaigaikurumaisu.org>

さらに、当会事業紹介を紹介する冊子「世界の子どもたちに動ける自由と喜びを」を発行しています。当会の考え方に始まり、具体的な活動内容について写真や図を使い説明しています。冊子が必要な方は事務局へ連絡ください。 メール： hp-admin@kaigaikurumaisu.org

冊子の内容はホームページ「フリー ペーパー」にも掲載しています。ダウンロードして印刷することも可能です。

5. 海外の子どもたちからの絵画

当会はこれまでに24カ国に8,100台以上の車椅子を届けました。当会が送った車椅子を受け取った海外のたくさんの国の子どもたちが日本のみなさんに感謝の気持ちを伝えたいと、200枚以上の絵を描いて送っててくれました。言葉の壁を乗り越えて喜びや感謝の気持ちがよく伝わってきます。ホームページですべての絵を見ることができます。是非ともご覧ください。

（海外子どもギャラリー <http://kaigaikurumaisu.org/support/pictures/> ）

これまで小規模で子どもたちの絵の展示枚数を制限して展示会を開催しました。今後は、すべての絵の展示会や、絵を本にして支援者のみなさんに配布することも企画します。

6. 当会の財務状況

当会が運送業者のトラックを手配して車椅子を特別支援学校から収集し、整備をして、海外へコンテナで送る国内及び海外輸送にかかる費用などを計算すると、届ける国への距離にもよりますが、1台平均約1万円です。それらの費用は当会の活動に賛同いただく会員の会費と支援者（個人及び団体）の寄付金と民間助成や公的助成の支援資金で賄っています。

別表の収支報告書の通り、2019年度は個人・企業からの寄付金や民間助成金をいただくことができ、626台の寄贈の費用を賄うことが出来ました。しかしながら、昨今は日本国内での異常気象が原因と思われる風雨災害が発生し、その人たちへの支援が重要な社会的使命となっています。このため当会を支援してくれている団体や企業において、当会が目的とする海外の子どもへの支援は優先度が下がっています。当会への資金支援は減少傾向にあります。当会がこれからも活動を維持・継続していくためには、更なる安定した資金の確保が課題です。

皆さんにしかできない、車椅子を海外の恵まれない子ども達に贈るというすばらしい国際支援と交流活動を、私たちの会がお手伝いできることを誇りに思います。是非これからも車椅子の提供と清掃・整備の活動参加、及び資金支援をお願いします。



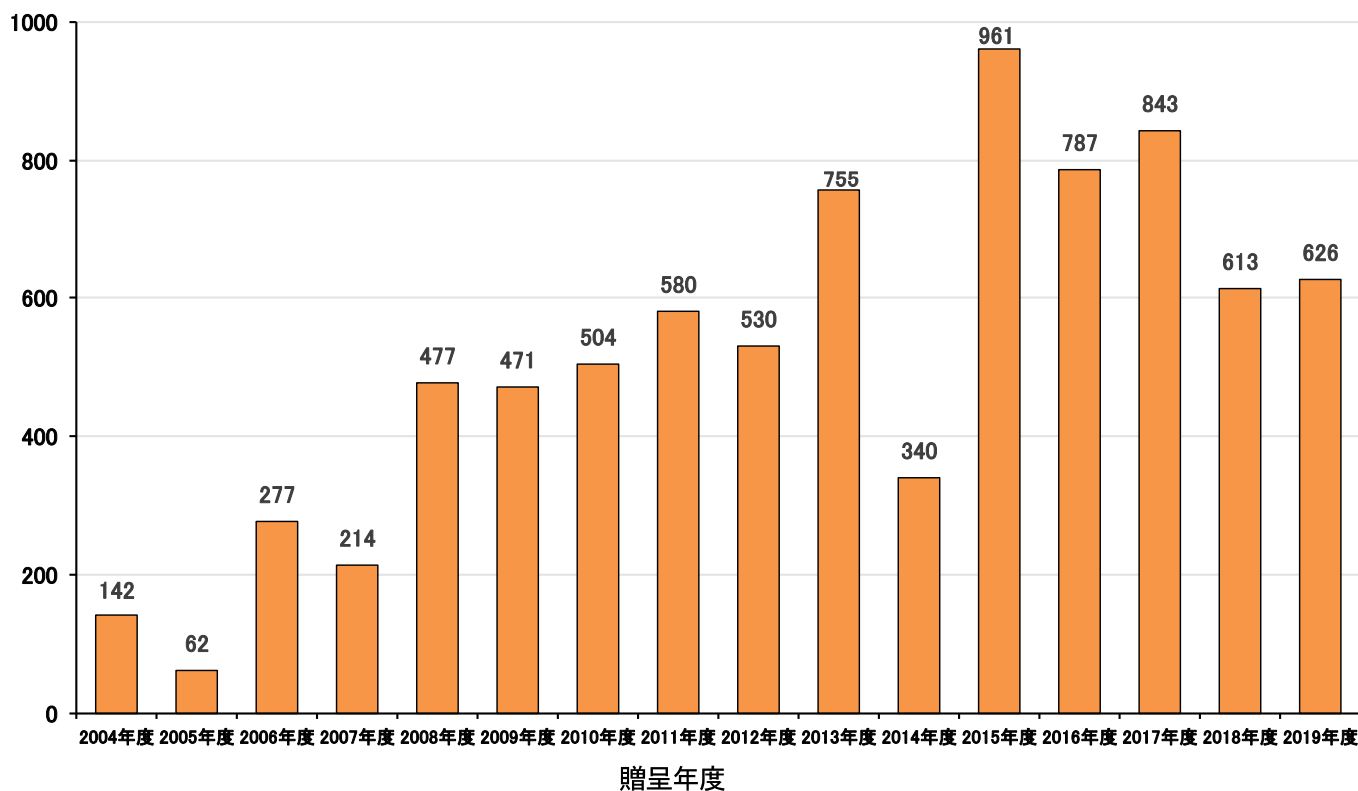
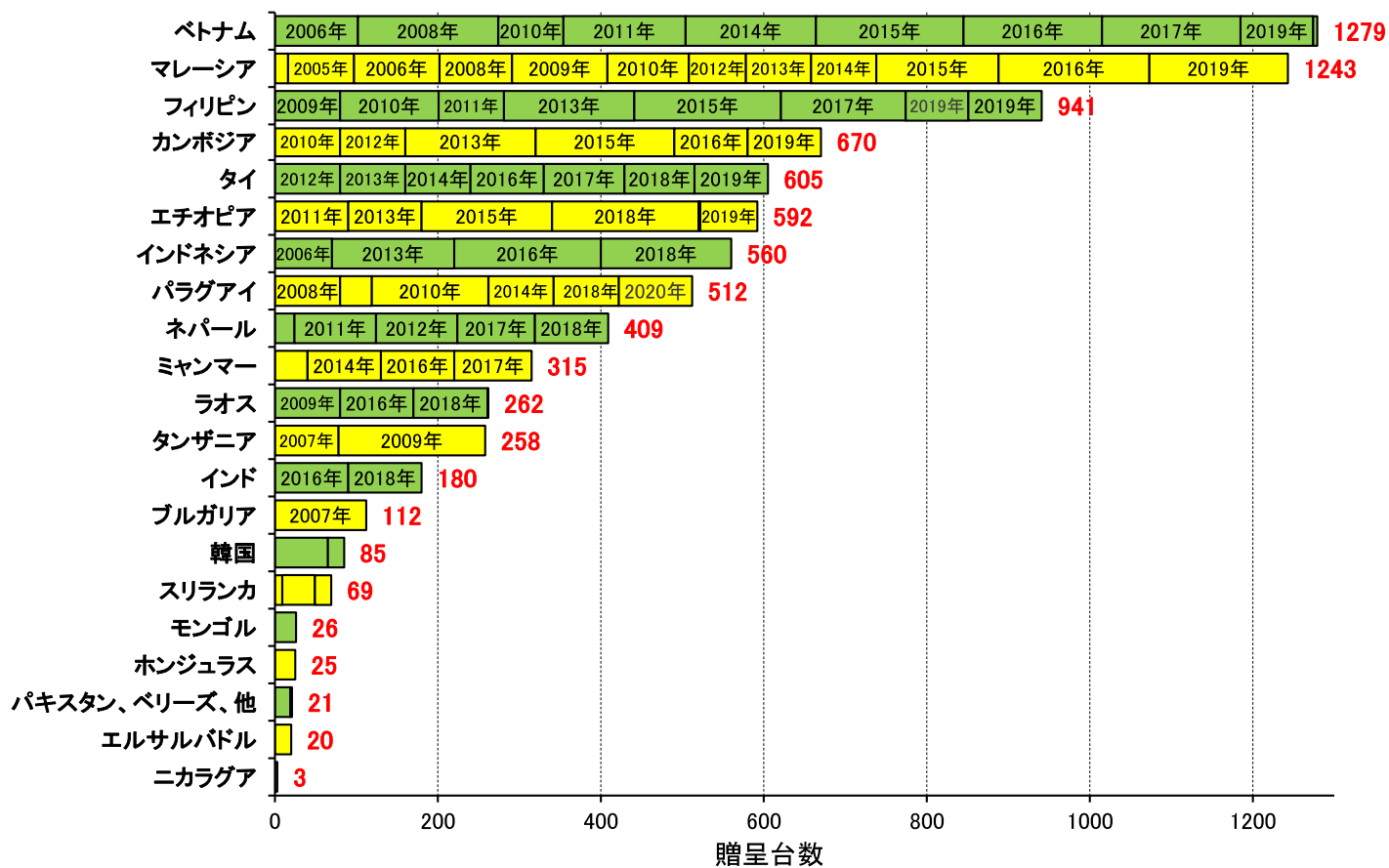
どうか引き続きご支援・ご協力をくださいますよう、心からお願い申し上げます。



NPO法人
海外に子ども用車椅子を送る会

贈呈実績 24ヶ国 8,182台

(2020年2月現在)



2020年度 事業活動計画

1. 車椅子収集事業

首都圏特別支援学校PTAの定期的かつ継続的な収集協力を得て、必要数を確保する。ただし、当会の財政予測から今年度の贈呈可能台数は前年比で減少する見込みである。そうした状況を鑑み収集目標は昨年より少ない400台以上を目指す。

2. 車椅子整備事業

- 例会参加者による確実な整備の実施を目指す。特に清掃はチェックシートをより確実に運用することで、作業精度の向上を図る。
- 収集した車椅子を整備、修理して寄贈することが会の基本活動であるが、当会が収集した車椅子を未整備のままで送付し、受け入れ国側で整備作業をして子ども達に配布する寄贈形態も一つの目標としている。現地の人たちが、自分たちの手で子ども達を支援する形態である。
- すでに、マレーシア、フィリピンではその実績が上がっている。その2カ国へは未整備での送付形態を今年度も継続する。

3. 車椅子発送事業（案）

- ミャンマー、マレーシア、フィリピン、エチオピア、インド、他などを探る。4～6カ国への贈呈を目標とするが、現地での受け入れ態勢を確認中である。車椅子の贈呈台数は、90台/国をベースにその目標総数を400台以上とする。
- 上記に明記している以外の国、例えばキルギス、ジョージアなどからの要望があり、今後も新たな贈呈希望が当会に寄せられる可能性がある。そうした案件は、具体化した時点で贈呈を検討する。

4. 車椅子の永続的な使用を実現するためのパートナー支援活動

- これまでに送った車椅子が現地で使われなくなることを極力少なくするための有効な支援活動が何かを模索する。
- 具体的な支援方法はどのようなことが可能か、今後議論をしていく。（消耗部品供給方法なども含む）

5. 活動広報事業

- 「活動レポート」の発行(年間4回) タイムリーな当会の海外での活動報告
- 当会ホームページの充実

6. 活動資金確保活動

- 広報活動の拡充による会員数の増加を図る
- 新たな民間助成、地域慈善団体等への申請により寄付金確保の増加を目指す

7. 「にほんのおともだち、くるまですありがとう」(子どもの絵の活用)

- 海外の仲間から感謝の気持ちを表した絵を200枚を一堂に集めた展覧会の開催を目指す。
- 絵画集の発刊を企画する。

本年度も、1台でも多くの子ども用車椅子を海外の子ども達に届けたいと思います。
皆様のご支援をよろしくお願いします。

過年度実績と2020年度収支計画（4月1日～3月31日）

（単位：円）

項 目	2018年度 実 績	2019年度 実 績	2020年度 計 画
前年度繰越金	10,168,094	4,968,776	4,273,290
収入の部			
会費収入	388,000	363,000	350,000
公的助成金収入	0	0	2,000,000
民間助成金収入	6,897,336	3,393,287	3,000,000
寄付金収入	2,355,470	2,975,347	2,000,000
利息収入	42	24	20
雑収入	0	0	0
当年収入額	9,640,848	6,731,658	7,350,020
支出の部			
1. 事業費			
車椅子収集事業費	1,754,641	683,609	700,000
車椅子整備事業費	1,238,130	1,754,258	1,400,000
車椅子発送事業費	10,642,129	4,315,305	4,500,000
活動広報事業費	731,781	276,952	250,000
事業費合計	14,366,681	7,030,124	6,850,000
2. 管理費			
事務消耗品費	4,255	8,460	8,000
消耗品費	31,615	37,973	35,000
水道光熱費	0	0	0
旅費交通費	33,032	22,250	20,000
支払手数料	21,962	27,989	15,000
交際費	62,222	23,292	20,000
支払保険料	108,136	118,676	118,676
通信費	19,309	9,580	15,000
複写費	83,068	51,616	50,000
会議費	106,835	79,579	70,000
諸会費	2,000	0	2,000
雑費	1,051	17,605	20,000
管理費合計	473,485	397,020	373,676
総支出額	14,840,166	7,427,144	7,223,676
次期繰越金	4,968,776	4,273,290	4,399,634

車椅子を受け取った海外の子どもたちからの絵

(すべての絵 <http://kaigaikurumaisu.org/support/pictures/>)

海外の子どもから日本の皆さんへたくさんの感謝の絵が届きました。私たちの会は、日本の皆さんから車椅子を預かり、整備をして、船に乗せ、海外のお友達に送るお手伝いをしています。これまでに24カ国の8,100名以上の子ども達に届けました。

日本の皆さんが大切に使った車椅子を、海外の子どもに届けるときには、皆さんの動ける喜びを分けてあげたいという暖かい思いを伝えています。人生ではじめて車椅子に乗ると興奮し、嬉しさのあまり涙を流して喜んでくれます。日本の立派な車椅子を見るのも初めてで、お母さんは家族の宝物だ、大切に使うと約束してくれます。



海外のお友達は、車椅子がとても高価なために手に入れることができず不自由な生活を送っています。車椅子で屋外に出て日光浴や新鮮な空気を吸うと、気持ちがよくなり元気になります。友達と村の祭りや学校へも行けるようになり、毎日がとても楽しくなります。外出すると地域の人達が親切にしてくれ、友達が車椅子を押してくれます。そして、家族や地域の人々に大きな影響を与え、障害に対する理解が深まるのです。

このたび、海外のたくさんの国のお友達が、日本のみなさんに感謝の気持ちを伝えたいと、絵を描いて送ってくれました。海外の友達が心を込めて描いた絵から、言葉の壁を乗り越えて子どもたちの喜びや感謝の気持ちがよく伝わってきます。日本と海外の子ども達との心の結びつきが生まれています。

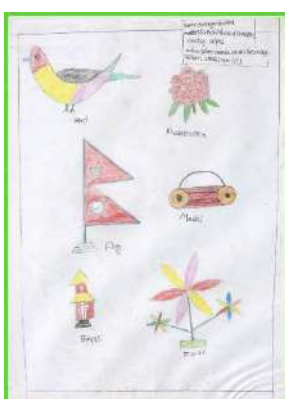
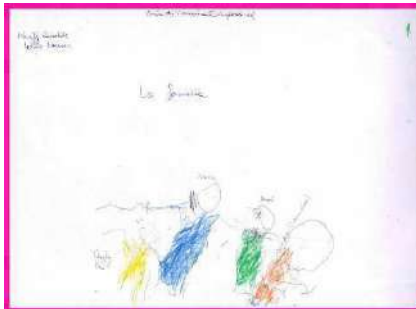
皆さんが他の人にはできないすばらしい国際支援と交流活動をしていることを大変うれしく思うとともに、私たちの会がお手伝いをできることを誇りに思います。海外には車椅子が手に入らず不自由な生活で困っているお友達がまだたくさんいて、車椅子を待っています。是非これからも皆さんの車椅子を提供してください。

以下は送られた絵の一部です。すべての絵は当会のホームページから見ることができます。

(すべての絵 <http://kaigaikurumaisu.org/support/pictures/>)



車椅子を受け取った海外の子どもたちからの絵



N P O 法 人

海外に 子ども用 車椅子を 送る会



活動
レポート
2019年12月 第22号



タイ

タイ向け車椅子90台の 引き渡しが完了しました。

2019年6月に船積みした90台の車椅子はタイ身体障害者協会のSuppacheep Didthad会長と職員がタイ国内の3か所の特別教育センターを訪問してそれぞれ30台をタイの子ども達に引き渡されました。各センターでは同会長から、子ども達が受け取った車椅子と当会の車椅子活動の大切さが説明されました。



Suppacheep Didthadタイ身体障害者協会会長のスピーチと車椅子の説明



2019年11月25日
ラチャブリ
特別教育センター



Kunya Kharomラチャブリ特別教育センター代表による感謝のスピーチ



2019年11月26日
ペッチャブリ特別教育センター



職員とゲームを楽しむ子ども達▶



プレゼントが子ども達に贈られました



子どもの自宅を訪問して
車椅子の状態を確認



2019年11月28日
チャンタブリ特別教育センター



職員とゲームを楽しむ子ども達



プレゼントが子ども達に贈られました▶





ベトナムの 障害のある子どもたちへ

2019年11月にベトナム向け90台の車椅子を積みこんだ本船が東京港を出て、同年12月にはベトナム・ハイフォン港に到着しました。その車椅子の贈呈式が2020年1月13、14日にベトナムのタイ・グエン省とタイビン省の2か所で開催されました。車椅子を受け取った子どもたちとその家族、赤十字本部幹部、赤十字地方幹部、病院幹部の人たちを招いて式典が盛大に開催されました。

タイグエン省 整形外科病院での贈呈式 2020年1月13日



ベトナム首都のハノイから北に車で2時間程度の距離にあるベトナム北部タイグエン省のタイグエン整形外科病院で車椅子の贈呈式が開催されました。参加者は50名ほどでした。



車椅子に乗る子ども達です。
タイグエン省には33台が届けられました。



桑山理事が当会の日本での活動を紹介しました。

N P O 法 人

海外に 子ども用 車椅子を 送る会



活動
レポート
2020年3月 第23号



(写真左上) ベトナム赤十字本部の社会業務部部長が挨拶に立ちました。このプロジェクトのベトナム赤十字の最高責任者です。

(写真右上) 整形外科病院の副院長の挨拶です。「当病院はベトナムの北部の山岳にある6省の患者を治療しているところです。これらの地域での車椅子の必要性は高い状況にあります。今回、いただいた車椅子はベトナムで作れないものです。車椅子の使い方や取り扱い方法をしっかりと受け取り家庭に説明したうえで渡します。『海外に子ども用車椅子を送る会』に感謝を申し上げます。」

タイビン省での贈呈式 2020年1月14日

2020年1月14日、ベトナム首都のハノイから南へ車で2時間程度の距離にあるベトナム北部のタイビン省のティエンボン区人民委員会ホールで車椅子の贈呈式が開催されました。参加者は80名以上でした。



ベトナム赤十字本部の社会業務部部長の挨拶と桑山理事の当会の取り組み紹介に続いて、今回のベトナムへの海上輸送を無償で引き受けてくれたAPL社のベトナム拠点責任者の木戸氏がホーチミン市から駆けつけて挨拶をしてくれました。
「このプロジェクトにかかわることができて非常に嬉しく思います」

体の小さな大人の女性にも車椅子が提供されました。タイ・ビン省には57台が届けました。



The Volunteers Group
to Send Wheelchairs
to Overseas Children
JAPAN